

# 堀田 龍也 (ほりた・たつや)

## 略歴

- 1964年・熊本県天草生まれ, 博士(工学) (東京工業大学)
- 東京都公立小学校・教諭, 富山大学教育学部・助教授, 静岡大学情報学部・助教授, メディア教育開発センター・准教授, 玉川大学教職大学院・教授, 東北大学大学院情報科学研究科・教授, 文部科学省・参与(併任)等を経て
- 現在, **東京学芸大学教職大学院・教授/学長特別補佐**
- 文部科学省・視学委員, 国立教育政策研究所・上席フェロー
- 日本教育工学会・会長, 信州大学・特任教授などを歴任

## 専門分野

- 教育工学, 特にICT活用授業, 情報教育・メディア教育

## 委員等

- 中央教育審議会・委員/初等中等教育分科会・分科会長代理/個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会・部会長代理/デジタル学習基盤特別委員会(R5.5-)・委員長
- 文部科学省 リーディングDXスクール事業企画委員会(R5.4-)・委員長



## 学校現場で進む 授業改善

# GIGAスクール構想は 次のステップへ

東京学芸大学教職大学院

堀田 龍也

horitan@u-gakugei.ac.jp



## 情報端末がある毎日





## 理科の実験の様子



体験の重要性

## 理科の実験の様子



だから録画する

## デジタルの利便性を活かす



よく観察して文章にする

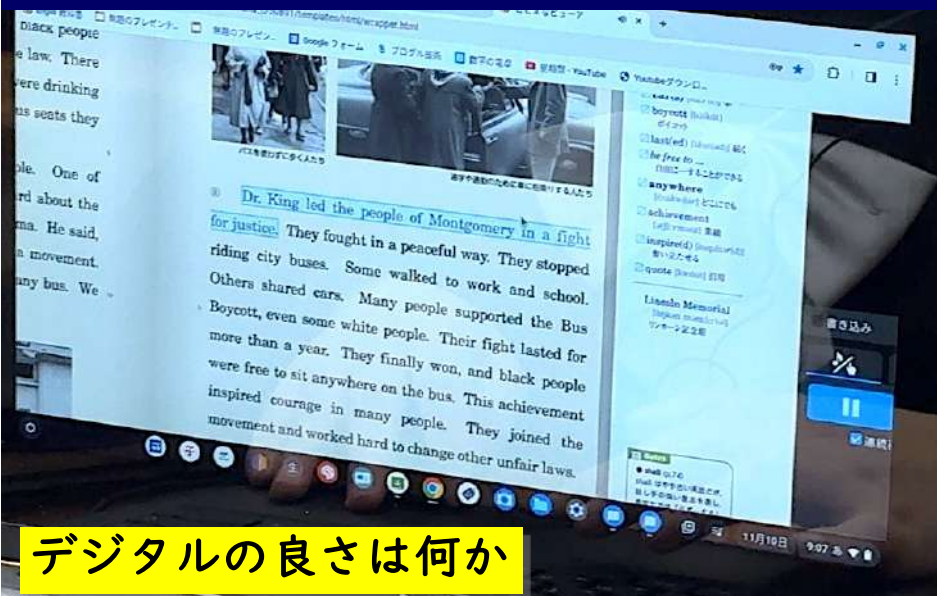
## まずは教科書を読み取ること



教科書をしっかり読む

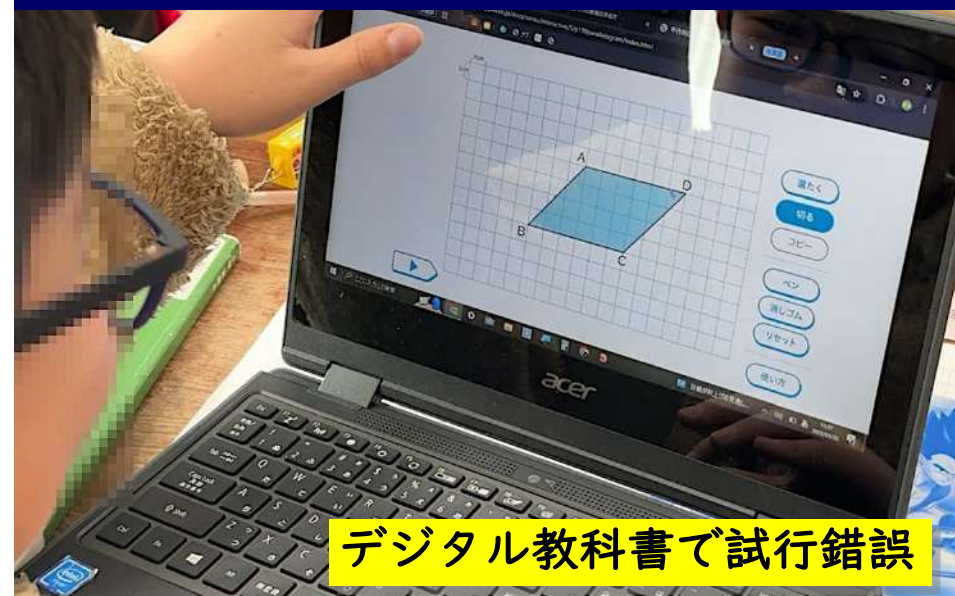


# デジタル教科書



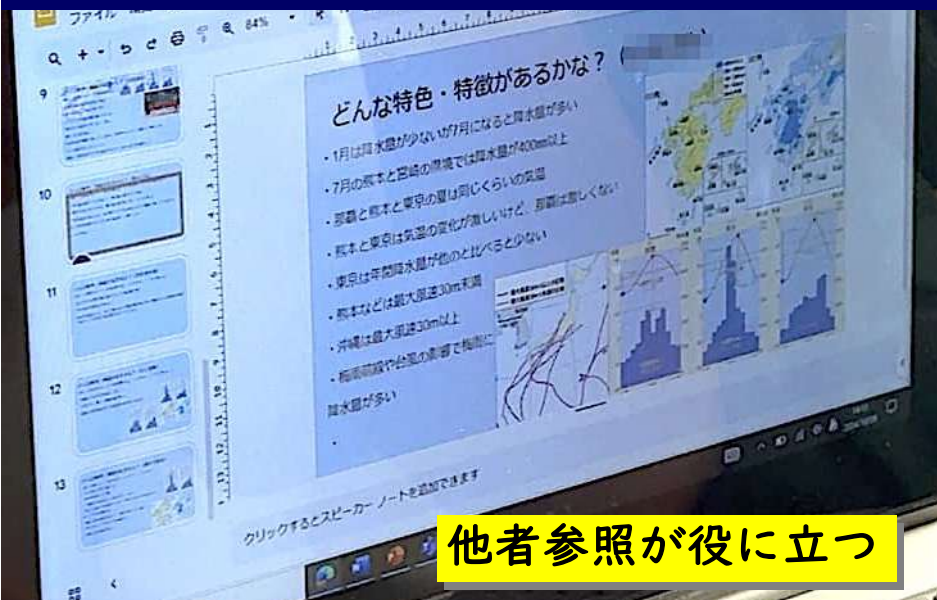
デジタルの良さは何か

# デジタル教科書



デジタル教科書で試行錯誤

# 多様な学び方を承認する



他者参照が役に立つ

# 各自の進捗を可視化する

|       | B          | C            | D           | E             |          |
|-------|------------|--------------|-------------|---------------|----------|
| 1人ですら | ◇1・2<br>作図 | ◇3<br>角度を求める | ◇4<br>周りの長さ | ◇5<br>線対称と点対称 | ◇6<br>縮図 |
|       | 1人ですら      | 1人ですら        | 1人ですら       | 1人ですら         |          |
|       | 1人ですら      | 1人ですら        | 1人ですら       | 1人ですら         |          |
| 大     | 1人ですら      | 1人ですら        | 1人ですら       | 1人ですら         |          |
| 杏     | 1人ですら      | 1人ですら        | 1人ですら       | 1人ですら         |          |
| 奈     | 1人ですら      | 1人ですら        | 1人ですら       | 1人ですら         |          |
| 大     | 1人でできた     | 1人でできた       | 1人でできた      | 1人でできた        |          |
| 作     | 1人ですら      | 次は1人でできる     | 次も人に聞くとと思う  |               |          |

自信の程度

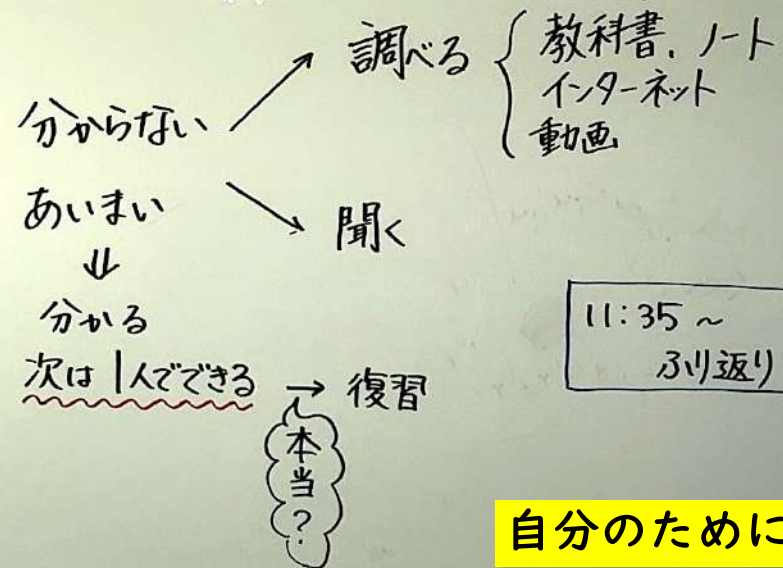


## 発展的な学び



解説動画づくり

## 何のためにどのように学ぶか



自分のために学ぶ

## さまざまな子供たちへの対応



援助希求に対応する

## さまざまな子供たちへの対応



遅れがちな児童



# さまざまな子供たちへの対応



外国人生徒の例

# さまざまな子供たちへの対応



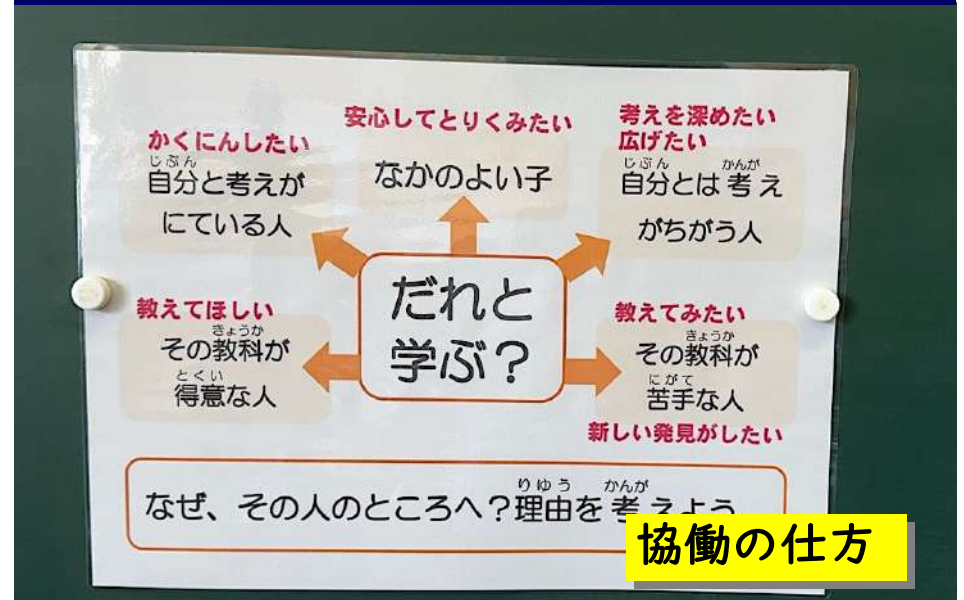
学校に来られない子

# 友だちと一緒に学ぶ



心理的安全性

# 友だちと一緒に学ぶ





# 何を振り返るのか

## がくしゅう 学習の振り返り方

きょう 今日、\_\_\_\_\_が  
わ 分かりました。

ほうほう \_\_\_\_\_という方法  
かんが がいいと考えました。

まな かの 学び方で、よく分かりました。  
つぎ 次は、\_\_\_\_\_という学び方で考えをさ  
らにふかめたいです。

がくしゅうないよう  
学習内容

がくしゅうほうほう  
学習方法

振り返りの仕方

# 無くなるわけではない



わかりやすく教える

# 無くなるわけではない



拡大提示と中継

# 無くなるわけではない

## 学習のための規律





# 無くなるわけではない



きちんと暮らす習慣

# 無くなるわけではない



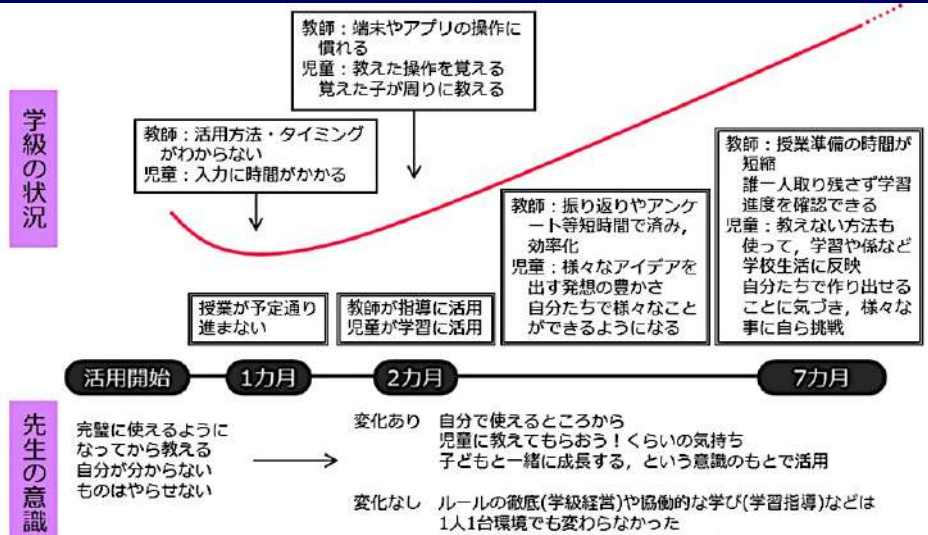
基礎・基本の徹底

# 手元を見ないでキーボード入力

ICT活用の基礎



# 教師も子供も時間をかけて慣れていく



(都城市学校CIO研修トークセッションの渡邊先生のスライドより引用, 2024/05/22)

渡邊光浩 (2024) 東北大学博士学位論文  
情報端末を活用した学習に必要な児童のスキル習得の支援に関する研究



## A小学校の全国学調の結果

### ◆観点別正答率

|       | 国語    |          | 算数    |          |
|-------|-------|----------|-------|----------|
|       | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 |
| 本校    | 74.5  | 77.8     | 71.0  | 65.6     |
| 県     | 69.1  | 65.5     | 65.8  | 54.8     |
| 全国    | 68.9  | 65.5     | 67.2  | 56.5     |
| 県との差  | 5.4   | 12.3     | 5.2   | 10.8     |
| 全国との差 | 5.6   | 12.3     | 3.8   | 9.1      |

## 練習が必要な学習内容がある



## デジタルと学力に関する言説への留意

1. 学力は多層的であり、上がった/下がったということよりも、どの内容/どの活動が、どの児童生徒に、どのように合う/合わないといった、丁寧で解像度が高い分析が求められる
2. 基礎的な学力が高次の学びを支えることは当然のことであり、今後も変わらないことである

## デジタルと学力に関する言説への留意

1. 学力は多層的であり、上がった/下がったということよりも、どの内容/どの活動が、どの児童生徒に、どのように合う/合わないといった、丁寧で解像度が高い分析が求められる
2. 基礎的な学力が高次の学びを支えることは当然のことであり、今後も変わらないことである
3. ただし、学びを紙で進めてきた私たちの世代の学びを前提にしているのかは課題
4. 新聞や雑誌などの紙ビジネスがデジタルを批判することについては冷静に判断する必要



## デジタルと学力に関する言説への留意

1. 学力は多層的であり、上がった/下がったということよりも、どの内容/どの活動が、どの児童生徒に、どのように合う/合わないといった、丁寧で解像度が高い分析が求められる
2. 基礎的な学力が高次の学びを支えることは当然のことであり、今後も変わらないことである
3. ただし、学びを紙で進めてきた私たちの世代の学びを前提にしているのかは課題
4. 新聞や雑誌などの紙ビジネスがデジタルを批判することについては冷静に判断する必要
5. 学力=「学んだ力」+「学ぶ力」と考えれば、前者の上下だけを指標にすると後者を見過ごす恐れあり

## 「学ぶ力」を意識できているか

### ③2学期の重点目標

★**見えない学力**を育て、  
**見える学力**を伸ばす！

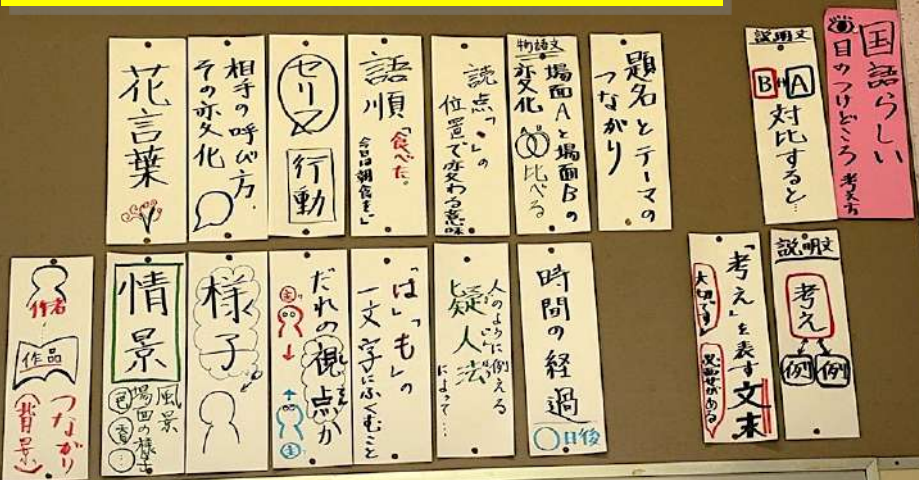
- ①目的意識をもった学び
- ②授業で高める自尊感情
- ③学習習慣の改善



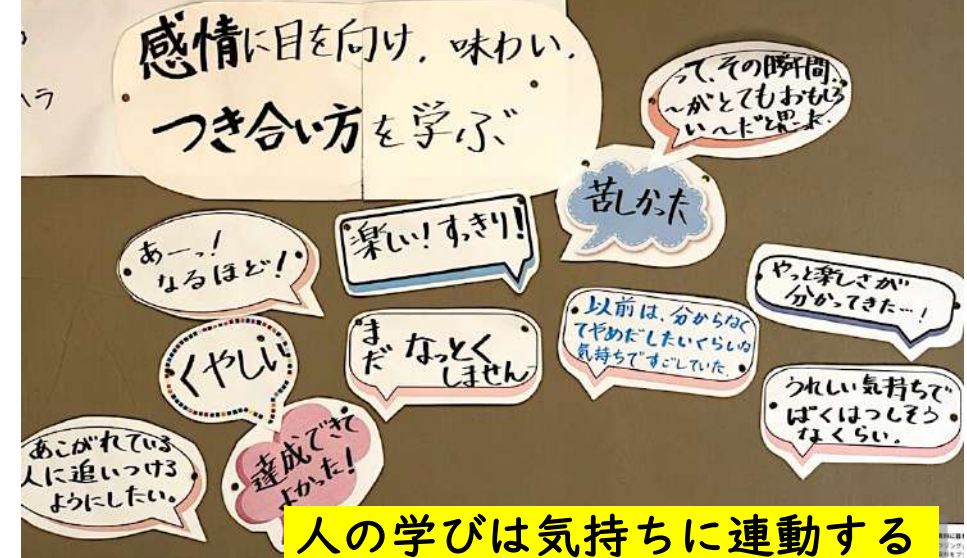
学校が大事にすべきこと

## 学びの質を高めるために

### 教科の見方・考え方を駆動させる



## 学びの質を高めるために



人の学びは気持ちに連動する



# これから求められる 授業改善

## 学習指導要領は**学び方**に触れている

第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項  
2. 以上のほか、次の事項に配慮するものとする。

(2) 各教科等の指導に当たっては、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視するとともに、**児童（生徒）の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。**

(6) 各教科等の指導に当たっては、児童（生徒）が**学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動**を計画的に取り入れるようにすること。

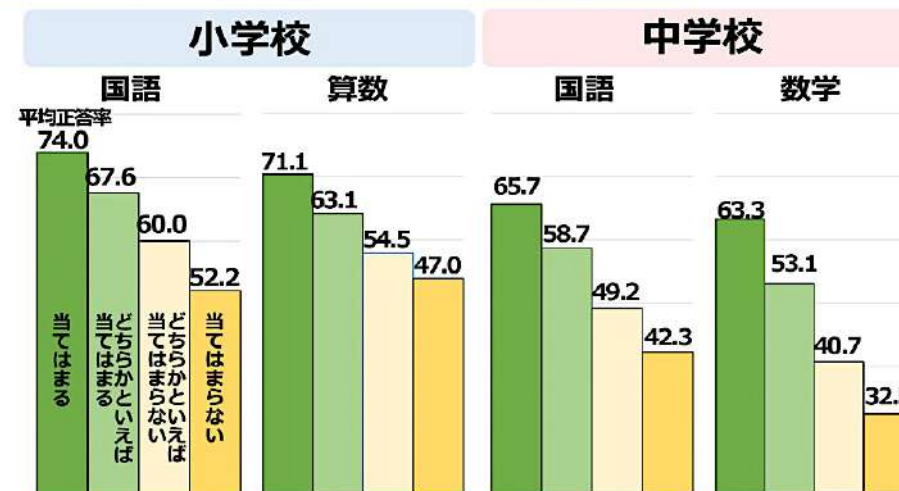
(10) 各教科等の指導に当たっては、児童（生徒）が**情報モラルを身に付け、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できるようにするための学習活動を充実するとともに、これらの情報手段に加え視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。**

## 資質・能力の3つの柱



## 主体的・対話的で深い学び×正答率

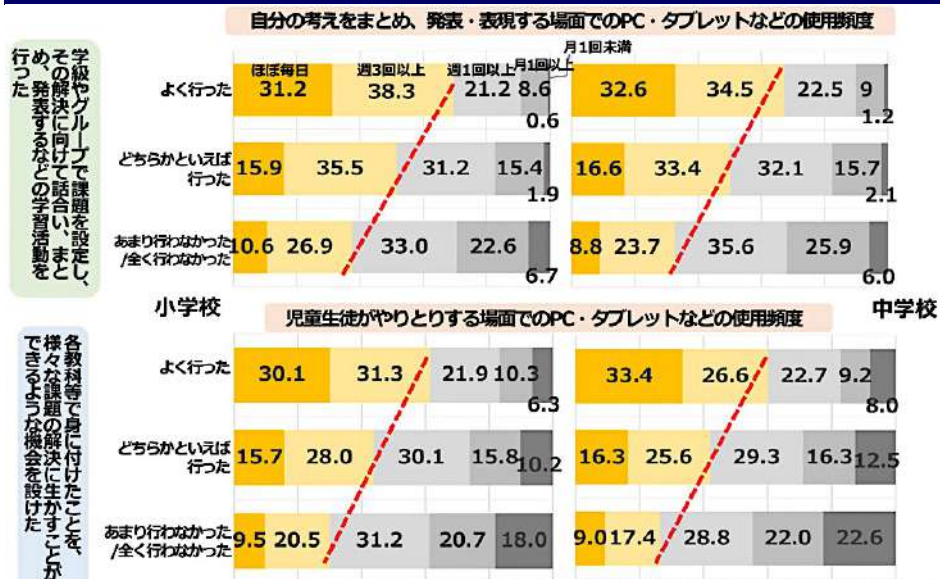
Q 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



【出典】文部科学省・国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）」をもとに作成



# 主体的・対話的で深い学び×ICT活用



# 全国学調CBTの段階的实施

|                  |       | 2024年度<br>(令和6年度)     | 2025年度<br>(令和7年度) | 2026年度<br>(令和8年度) | 2027年度<br>(令和9年度) | 2028年度<br>(令和10年度) |
|------------------|-------|-----------------------|-------------------|-------------------|-------------------|--------------------|
| 教科調査<br>(悉皆)     | 小学校   | 国語                    | PBT               | PBT               | サンプル問題による準備       | CBT                |
|                  |       | 算数                    | PBT               | PBT               | サンプル問題による準備       | CBT                |
|                  |       | 理科                    |                   | PBT               |                   | サンプル問題による準備        |
|                  | 中学校   | 国語                    | PBT               | PBT               | サンプル問題による準備       | CBT                |
|                  |       | 数学                    | PBT               | PBT               | PBT               |                    |
|                  |       | 理科                    | サンプル問題による準備       | CBT               |                   |                    |
| 質問調査<br>(悉皆)     | 児童・生徒 | 令和6年度より全面オンライン方式に移行済み |                   |                   |                   |                    |
|                  | 学校    | 平成28年度よりオンライン方式に移行済み  |                   |                   |                   |                    |
| 経年変化分析調査<br>(抽出) |       | PBT                   |                   |                   |                   | CBT(全面)            |
|                  |       | CBT(半数)               |                   |                   |                   |                    |

\*文部科学省「令和7年度以降の全国学力・学習状況調査(悉皆調査)のCBTでの実施について【概要】」を基に作成  
<https://project.nikkeibp.co.jp/pc/atcl/19/06/21/00003/121700588/>

## 今、改革前夜



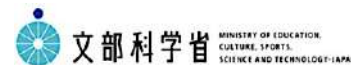
### 阿部文科相 学習指導要領“改訂の検討 冬にも中教審に諮問”

2024年11月15日 18時47分

小中学校や高校の教育目標や内容を定めた学習指導要領について、阿部文部科学大臣は、次の改訂に向けた検討を、この冬にも中教審＝中央教育審議会に諮問したいという意向を示しました。

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20241115/k10014639831000.html>

## 今、改革前夜



### ● 初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）

令和6年12月25日  
中央教育審議会

- 初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問） (PDF:302KB)
- 初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問） 概要 (PDF:531KB)
- 初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問） 参考資料 (PDF:8.1MB)

お問合せ先

初等中等教育局教育課程課

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/mext\\_00003.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/mext_00003.html)



## 次期学習指導要領に向けた諮問には

(課題意識)

我が国のデジタル競争力は他国の後塵を拝しており、社会全体の生産性や創造性を高めていく観点からもデジタル人材育成の強化は喫緊の課題です。その一方で、実体験の格差やデジタル化の負の側面等を指摘する声もあります。「デジタルキャリアか」、「デジタルか紙か」といった二項対立に陥らず、「**デジタルの力でリアルな学びを支える**」との**基本的な考え**に立ち、バランス感覚を持って、積極的に取り組む必要があります。

## 次期学習指導要領に向けた諮問には

(審議内容)

生成AIをはじめデジタル技術が飛躍的に発展する中、**小中高等学校を通じた情報活用能力の抜本的向上を図る方策**についてどのように考えるか。小学校では各教科等において、中学校では技術・家庭科、高等学校では情報科を中心として情報活用能力の育成が行われているが、その現状と課題、海外との比較を踏まえた今後の具体的な充実の在り方をどのように考えるか。

## 次期学習指導要領に向けた諮問には

(審議内容)

教科書の内容が充実し分量が増加した一方、網羅的に指導すべきとの考えが根強く存在し、負担や負担感を生んでいるとの指摘がある中で、**新たな学びにふさわしい教科書の内容や分量、デジタル教科書等の在り方**をどのように考えるか。

## 次期学習指導要領に向けた諮問には

(審議内容)

興味・関心や能力・特性に応じて子供が学びを自己調整し、教材や方法を選択できる指導計画や学習環境のデザインの重要性、**デジタル学習基盤を前提とした新たな時代にふさわしい学び**や**教師の指導性**についてどのように考えるか。